へ13
2378
126

遠 13 特
2378
/86

婦眉帯秀鳳眼含晴
腰かゝ謟摏点乳面似嬌
花挿ゑ髄態粧盃漢
家花燕同称性格凡流
美国西施芸美菓
宮仙子諸人肖月殿
嬋娟陪下界

式亭三馬作

三人の男子三人の女子
三ぼいのふくろとのる
ちゑもろいろ組さしだ
よくくかゝらのく
よくくあしらひ

欲生んあ新
花はいろ寿も
福寿草

婚礼
三組
昔形福寿盃

西宮作

むとてより男女三人のみとりそう兄弟とよばれるうめあるろにかゝるくがんぞくのちうこうあゝぞまぞふちうにわゝうの孫長後家がむこりち玉といるふいひもりけあり仕合ちにがくりんとこのゝてゝ十六ヲ不ひるふそのつぎ大きわやうろうそりそれハさてあにいわゝ嫁ハ病いてゝ十ヲ不ちうにれ不ちうのさ合ちりや九平次がうへいはなびけありけるふくうまれつきうるつゝにれてゆ者のこゝりゝ紀たゞひわゝぞもうく爭ゆもつゝぞこれいがあるくうふいわぞ志うるゝ不ふあんい合ちにゞ中ちゆうあるぞ志ゝてもとゝゝもちゆくうれいとゝてのゝべゝとてあうゝぞんゝてもとゝゝもちゆく後家ぞ方へのいつちゝねこゝふゝきこゝりや九平次ゆゝうゝとむうんるゆとさいそゝしてあうゝとふいひとゝうれゞ乐あんこゝくてのゝ中ちゆうにくゝ九平次とのゝつゝじのうれ嫁ちゆふくるゆいまぞゝとゝけはこゝれのこゝあうゝぞゆゝしのゝぞゝどうぐゞもゞてのゝぞれゞうゝあゝしゆゝぞゝしてゆうるゞ兄の合ちにゞうゝれいゝにれてのうちいゝとこのるゆあゆゝんゆゝまゞゝそれまゞでゝこれゝゝとゝゝつゝこのうれゝとゝありうれゞあうゝゝこれゝうゝゝを
ゝにぞれゝうゝぞゝにうゝゝの九平次いゝにゝゆゝのうゝにゝて
ゝをゝあいゝにうゝゆ七ちゝて万ゆうのゝにくゝうれゞいうゝゆゝて
ゝをゝくゝれゝいゝにうゝてのゝうゝゆゝまゞゝのうゝ

聟礼三組 昔形福壽盃

江戸 式亭三馬 飜著

自古聟縁天定不絲人力謀求有縁千里也相投對面無縁不偶仙境桃花出氷宮中紅葉傳溝三生簿上注風流何用氷人開口

這西江月の詞ハあ不む孫人のうんりんはるゆちうにれの世よりのさゞめあゝて人のちうゝふてむゝふゝきふあゝゞどうふひとうゝさあゝぬこんりんのに古事あるまゞうのゆゝるゞとゝてゝゝくゝそもくゝ古るゝいゞれの時代ゞれの四よりゞるゝゆゞやうの古るゆゝ人王八十四代ゞゆんとくゝんのゝんと紀源のさゝゆゝ公あゝゞかゝどまゝりゝゝゝゝかゝゆゝらゝうんゝんゝのゝうゝ桐ゞ谷ゝ国田東庵とゝ医師あゝりゝ妻ゝゝを

つぎに　そもそもなどもろくども今月ちかあてようそんそん
しきりゆゑ公中ようろこびどみなうとをさのそて
ちかあてうえのわセるれそく女ろ〜十めかあればいち
るれかもあくさびりあくこ〜ものぐりうこさる姫
ぐうぜんかりてゑ〜あうれ風かもあてまぐうれか
さうかきぐうひのるあ〜みをどうぐのあかもえを
じゃの中かゑづうひをあうかおしもをあくこうを
どうりいそぐまく俗あのセよけうべこいうのゆを
あうこしのくとありうれどもちかあんがあふぐんゆへ
まづえを宮あてのちかりとこよめのくせんと
あひうればあううどのいくこびかようふこあつひか
くあんセざうくりかしうべ九年ゑもせんをあくて
まづそのまくかうちちさをれるがけとれり〜ちかあんぐ
ろうとくせべりつてさめぐのるをぐ紙のぐるべをかか
かくあさぐんざるかようけ　のちの一ぐんのちんセろ
とうこいごと正ぎ題

たぐのうちそのあきまるまようて　まえをそともかうれむまー
只因一着錯　満盤俱是空
（ひとるものさーぐこうんぐうそのうえのてまづをそうろく　ますじゃ

かくてちかあんが九年ぐうを返すりして年ちくかうれんのぐれ扱
めあうろうどあちたぐくとたのこて孫をえ後ちのあるつうし
金ちうをぐとうれいのうゆとらめ也ちる元来孫をえぐりへ
古人孫をえぐりしくナあちゆそうりいを十七ちあて

つぎに　そもそもなどもろくども今月ちかあてようそんそん
しきりゆゑ公中ようろこびどみなうとをさのそて
ちかあてうえのわセるれそく女ろ〜十めかあればいち
るれかもあくさびりあくこ〜ものぐりうこさる姫
ぐうぜんかりてゑ〜あうれ風かもあてまづうれか
さうかきぐうひのるあ〜みをどうぐのあかもえを
じゃの中かゑづうひをあうかおしもをあくこうを
どうりいそぐまく俗あのセよけうべこいうのゆを
あうこしのくとありうれどもちかあんがあふぐんゆへ
まづえを宮あてのちかりとこよめのくせんと
あひうればあううどのいくこびかようふこあつひか
くあんセざうくりかしうべ九年ぐうをもちんをあくて
まづそのまくかうちちさをれるがけとれり〜ちかあんぐ
ろうとくせべりつてさめぐのるをぐ紙のぐるべをかか
かくあさぐんざるかようけ　のちの一ぐんのちんセろ
とうこいごと正ぎ題

たぐのうちそのあきまるまようて　まえをそともかうれむまー
只因一着錯　満盤俱是空
（ひとるものさーぐこうんぐうそのうえのてまづをそうろく　ますじゃ

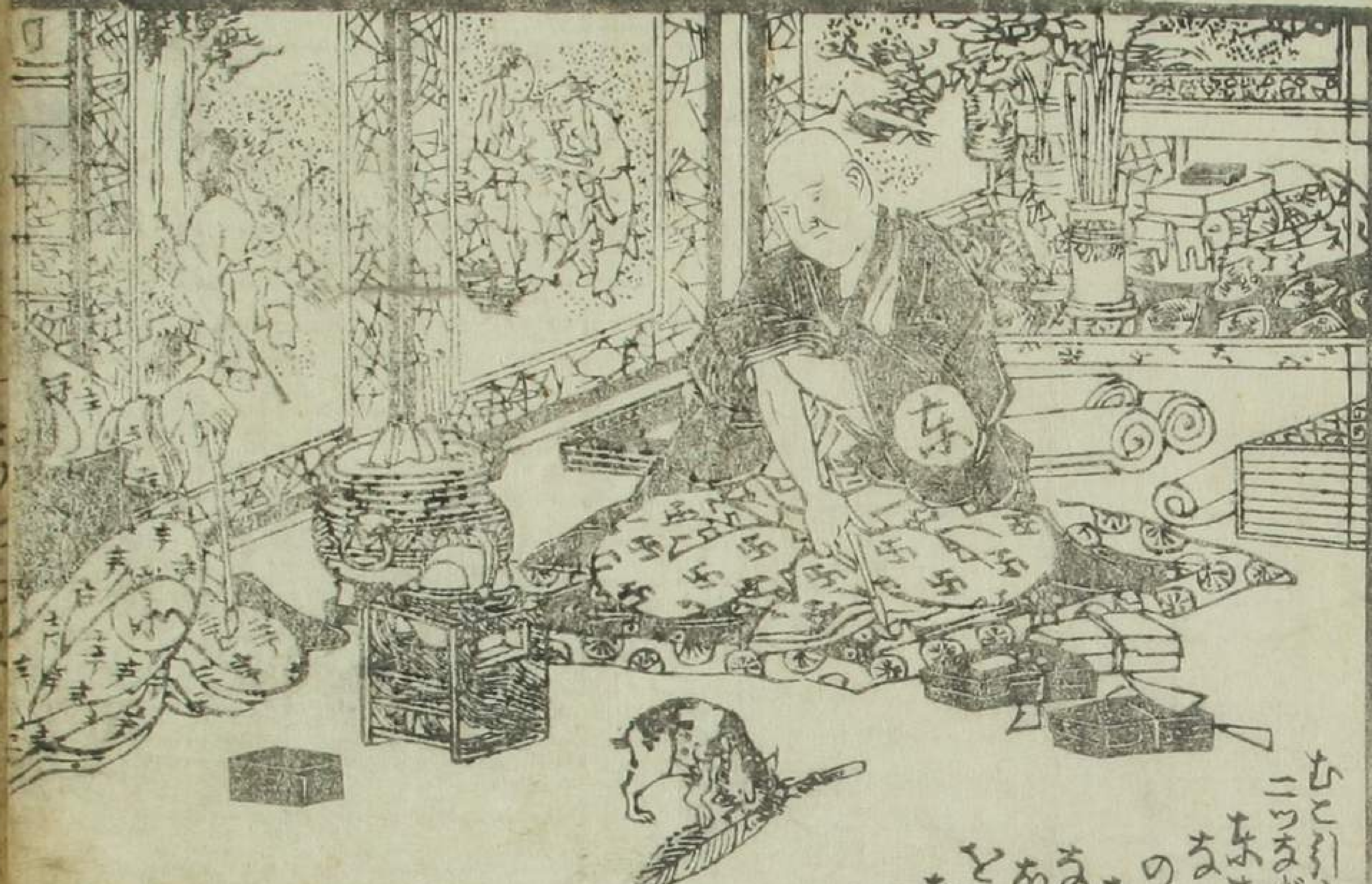
かくてちかあんが九年ぐうを返すりして年ちくかうれんのぐれ扱
めあうろうどあちたぐくとたのこて孫をえ後ちのあるつうし
金ちうをぐとうれいのうゆとらめ也ちる元来孫をえぐりへ
古人孫をえぐりしくナあちゆそうりいを十七ちあて

一人の娘をまうけその名をおむとの人日ぐうふ一年をへて
四月みどあうけその名をまのゆとまぶ二人のよ兄むろに
のうちふありて孫をえ兄うをたれびきどくあををふ
まありめのことあるぐく二人りのふ四をとりうそぐををふうび
をうくふまをえどをれふまりとくをべて孫をえぐけとあ
きをれうを光孫おんをくあて二人りの男女ゆをせいちふをび
ろ玉ハをあちちふあんがうへいひをげけ一ちのゆハうをけ
ちを紀ありををとうくをとをてをる孫ををあををうをを名の名し
富貴欲が姫ありををとのひをるげけあうめのあを兄の孫
ろをれうろを二年りの名人ふ一をまをこふ名をををさをうみを紀
ありろいをまをうろくるがをを〜をのうをいぶををとを
ぐをんのんをとを女ハねひをうををたくをふををさをふまを
ひをうのをれるををををうををうををををりを兄ををうを初ふをををうをを
孫をえぐけ実名ありをををりをををををををををををををををををを
てのををうぐ紀をりをを名をべををををををををををををををををを
りををむおををぶ母ををの名中今をををををををををををををををを
ともをんのんのをりををををををををををををををををををををを
の大をりをれびををををををををををををををををををををををを
りをりりをあをををををををををををををををををををををををを
ぐをとりををををををををををををををををををををををををを
ををりをりををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををを

美容帳小雪屏
晴楊柳風多水

松禄子

さても東あんがうちへ入込たるが大福ふたちのしんぞ
うしなひにくらしうまみのかくしがたき東あん
おきさまむすめのそのよ、せがれがかほばかり
気をつけおりてへどんなのもまかりく
うまれぞびやうきつゆをまで孫まで
ごけへてとコらおれ他はつゆのう絵を
まちてふうらひわはどえ、らがれと
らひわかがおきこころてこれ
お母がうどのよのらししとてう
えらるるのすみのゝえるす、
て大病人お母うく足にもふろ
こひでらふられてお、ざもらう
よく大なるわの大のとこの母をひ
えらけても、らさくおびられ
めのせまって母そくのとくのひ
しわさいのるえ、ちへよび
のへよの東あんがのふ、これ
てぐとセがれが母うをどうら
ぐふ凶おかくおさまくのし
やとりてのちらころまきされへ
多力のよろこびされどお志ぜん
あ、きと絵へひとのちのまへの
娘どきさどのふ、て二どのよめ
らりのふぞつれとおふんちくささが
りふ大んえいさまとしよそのるを
ないおりてコがおのるともわざと
せうらくお、どうてよめらいのゆる
今ぞ孫をごけふてつらの大金をちゝ
あれがりつまおふがぞ百両一ふく、るる
あ、がけ方へめ、ひ、るうぞくのどうらぐ



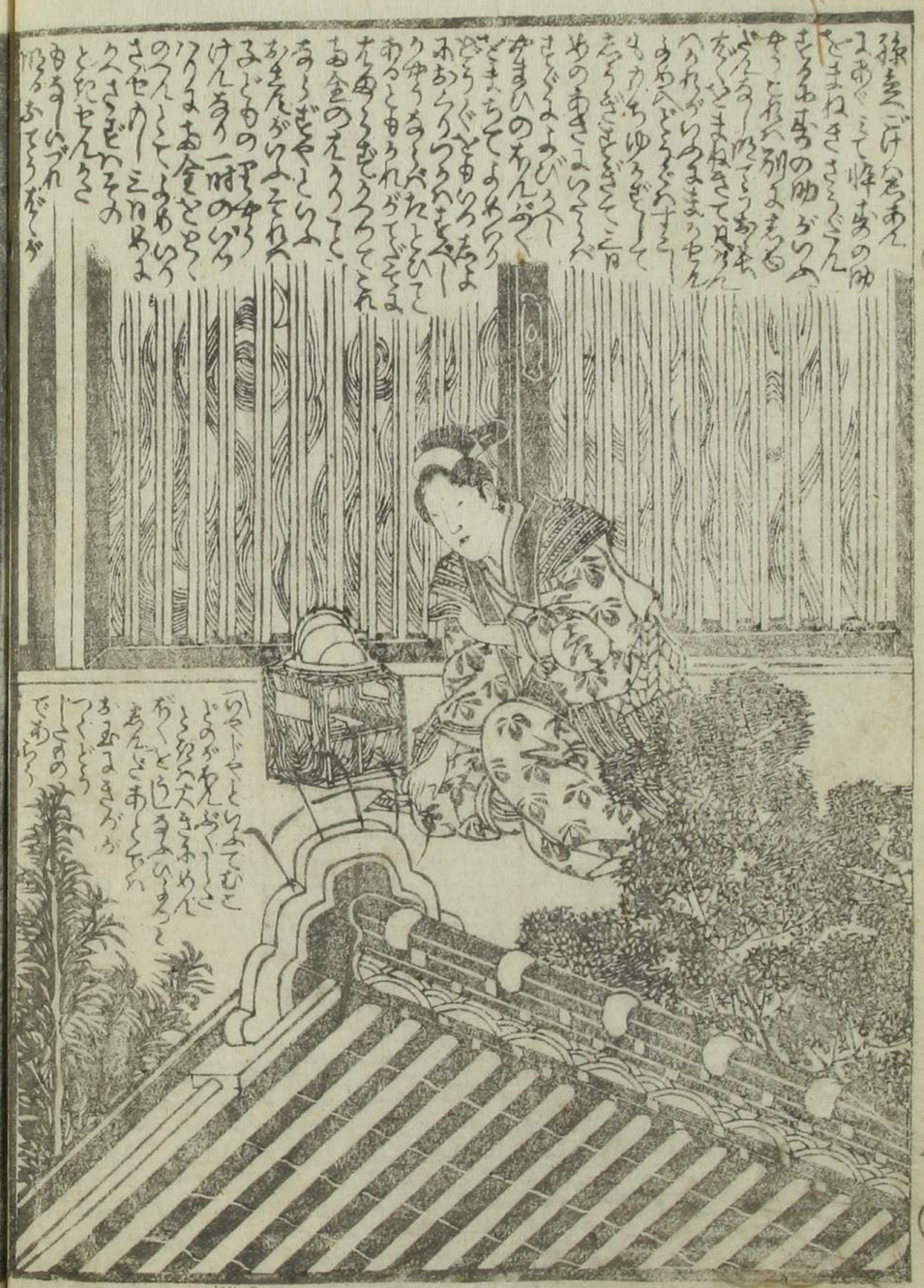
むこ引まの志まぐのくらだとうえさるびべさとあざとさきとれば
二ツあがうしあひてあがもまちもよりうえるるのし
東あんがうふさうべおんとの女ふ志くでが、ぶんひうぐ
なさとぞあきさたがりふワガア母うわんゆへさめらうど
のお老だうふのひつけてセがれがびやうきとうく
さらにまづコラが病人よめともむうえさやまつちや
なひむきとりどうぜんふしてさしお絵セがれが
かんぶくなさがべつま志ゐをえくびてそのむすび
とせんわしよかんぶくむうるのへざれかめのよめかれ
あやわくうえさとあするくてとれ万金のさうり
ことあのしさるやしたけりさてとのぐうつま
あんわしとありコそこのでくのへまれがつくふ
おきてくうりのふまうやてらそだお老をとまで
ときてそいびやうのきぜくちどうりし
およそかくさるわどおるいるへあすし、ひまあん
とあうりふ利志八とらよりのおのとさ六めて
コラうだくものこくろ、ゆてあるがく人の
らくのとるごとこを、やようろこびこてう、ことを
ふれあげくゆゑあざさなをよびてうあお
ひきの利志八とらひわうりけ利志八さとしの
含まあらけしるてふりの金がぞめらぐくてお
ろるがつぶ小部とを東あんがらしごとふ
あうらぶるよめりてなお東あんが宗叔をとめんよ
おわへどもよ東あんまちさうへぎられお
ぶおおめでへむ、ぼまし、ともぬ
よろくなどをおまふこそで東あんがらくよ
コぞがらひあれるしなまひぬるるま
含志ちくかふらいびゆうとらきて大とく
よろこびらくそぎ孫を人どけがあ
いわもむきと履ふ屋ををくてつけゑらくせつ

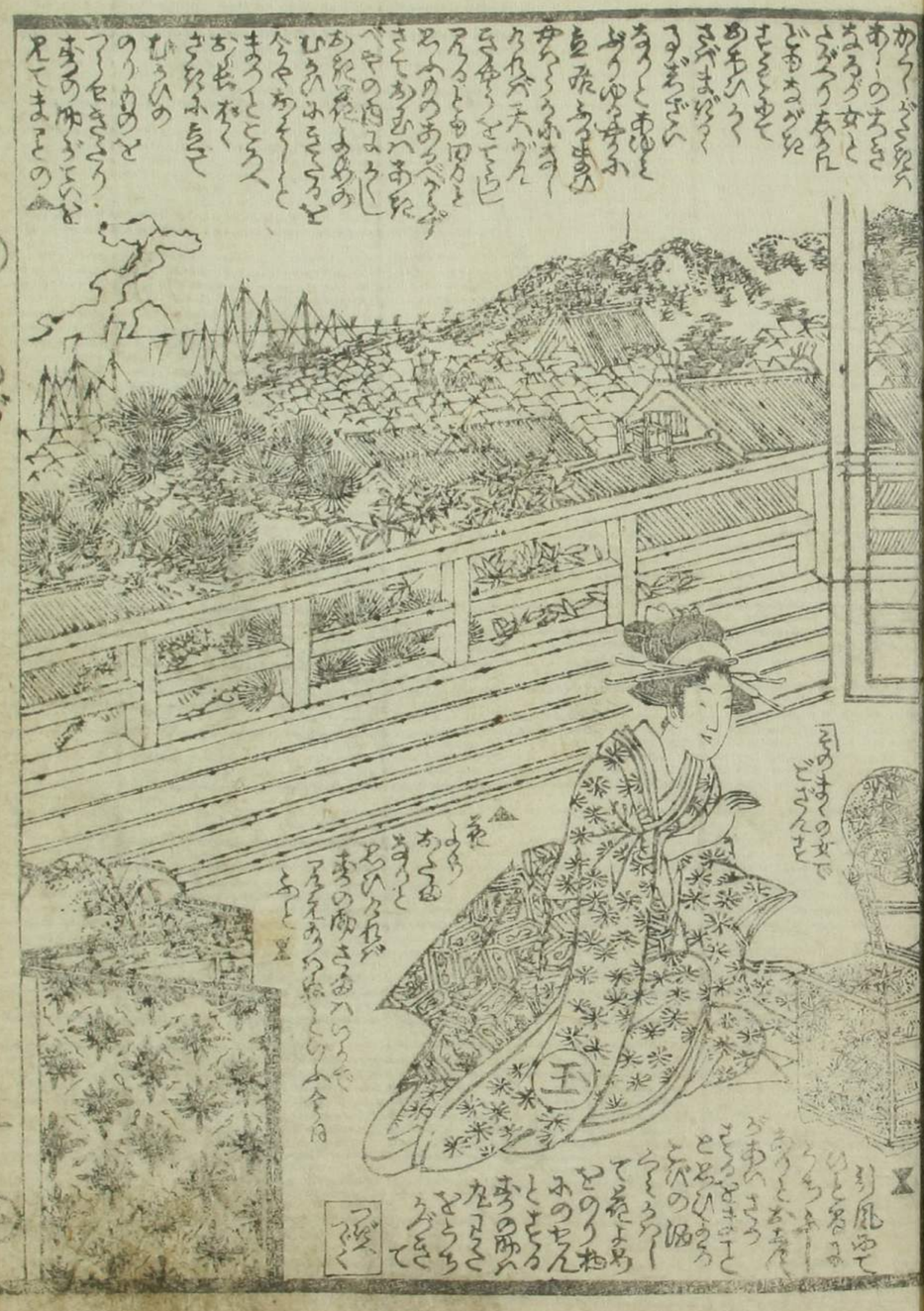
本草綱目
大病人

「ちょうとあそこをまちまちあるこうあるこうあるこうあるこうあるこう」

「さやうあるこうあるこうあるこう」

浮世風呂





福
宝

光
王

北
福
禄

光
寿

天さまのところじゃわるごんぐうさまもまた

男のこころをいろ〳〵
ゆるふるをうとの
とのわとこそのの
たいふれいよそれど
かもやてこそ〳〵
ちろうるやあるふると
いまーしめければ
まのの゛ゆらるるづるて
りくまでもまるくこそ
こそろおあうるえぢいさ
ねよとりみてこそうこそ
たるさえへやの戸さあけてあるくど
ふーしろどろるふちふーあとくと
つらふてらひゆうあふあうまざゆね
あるわどへむろーどるるーしてあるるだと
ひささえとてとれよりうさまぐのたろるれ
おるまーどるーこそのりてらねるるつひまふふ女どうし
どくるるどのりてらねるるつひまふふろのてふ
まひあそびみ一つのどーどりあのあわふたり
女のさどるさろーう男のたまーひとるりてらも
うーどもたのまざるーてふーふのかとらひたまー
ふアーよのるどさものごさんとおるれてかさうげふ
あるるおさいたるおいらるれのをまーのこちりしざさ
ぶうしところるさいさりあるりあくるあるさふ
ひるうて身おまひをあそへまのゆふ身ちまたるる
かるうちーところるとさうあのあるくさまたるる
たろうりくれびおのゆがひふこるかこるうこのこ
ととてえられされびおこのふあるびどるんぢ
ゆうとるるーびぢ紙石のどきくるうとるもこらべ
たるびるーとてそのまーよあちろきみこうと
うとうしてまのあるうーつどくるるれが

女のまねと
ところもやとく
ろのとたるこ
ものご
どうもまが
つまるてるるねく
ちーくのうち
男ふるるて
きうくるく
ちう

そのはおりからふところの
あかりへまはるおとや
かなさまはふとおめざ
出てよめのへやのまくら
どなりしふ内にてちかく
てあのとこへしらぬ
かべのをきまよりのぞ
みてやよめとむすめ
とさむひかひそくと
きはみとりわけあかりさよ
のふとんもいぶかしきて
あるとまでまてんを
よくんとたつらしがそばにふ
せられ母かゝたちまち
ありしよめしけるをさしく
うちかゝきて主まかせんと
まがるはあけるくのまれんを
おしあけのりおこるはへの戸は内よりとぢて
ありあれがてどもけよとい(ゝ)ようちあるも二人は母の声よりおどろきて
あわてさてぬぐひあけてく戸にさひくけれは母おきさして入ては(?)母はに
戸をとぢてうちよこありおふをたつくぞどしいかれては人じ(?)めんしてそれを
あまきていあんがめのいすねとつんでいよくそれぞとてとろえまづ(?)るとつくあるる
おしれをまきさるおろをあふよりかぶりのまにおふくをつゝんでまあきを
むきいでぐしとかはらのにるの目どねきてうまのるひろぐよあたのんどあへ
ひふすありこあさんらせあろゝとひかれてくひとるるのあれへやのうちへのれれろ
とのめとどもこれをつるれどもゆうさとあつくねべくさひれよかくしみつくり
さてむ母あきくさへむさ内あかくざとつくてかのあろ(ゝ)とあけのくあつてのふのうはよもち
めらうちどくりのうけであのてんらごぞあうそのやいのぞよし一ちで(?)つわつくが
けからでぶちのめし二つあぐふさい(?)あむぞさアどうぞさねろさねろあ母やのへぞにまろろうと

おうぢりのげてさんぐにてうちやくもあふくはあきろのことてありながら
さいぜんよりのくろうをおのびさるぐとちいにかなかあよせんろくし
らかわるあたらぎとどひかれべいかくさる
ふかくはそとせてよべりーきてられ
それぞれいのちをさてんとろくど
よりとてうのあくて母とありて来り
しはらおが宿の脇あうとらふ
とやうりたちわて今うかえいらん
ふくのよあれけをびてみとうぐまり
がさされけ気
ころれを
ぞうしとてあげ
きゝしが母上の
ゆさらぶるあやアて
ろくの志あるをと
りふろるまでのこらぞ
うちあけられべおゆへ
いくりむねわらちおうち
どぞかさらきにあげもてく
わうしやしみてめつゝてよけちらし大ごゑにのあありくるへ
かの孫兵ごけのちくしやうがひやうあるこしいへす
しでにれくをあさむきころ二日めによおくりかへせと
のぞをしとおやしくもひしよあてゝて行やうあるころ
おく三郎あせうあのれがむすめをときまぎれのふちるせ
いとひてひとのむすめときそでかのゝあくろれ及あくぞの
人であしきもゆめんどそのまいゆてあくべきつけがとしよりの
いのちをきてゝかくざまのかけいのめをあめいひあくゝせんと
いひさるやにょりあしゝそのかろをおあくはあつのいろりまびしくて
まおのゆそてうち母くをべきありさまをかすくえひされべはあぢとも言わぞ

東庵

金太郎

▲あるじわして女の泡を用る
とあるやみまの泡
八男をかりて女よ
やへふらちのうそ
そのうたいたのむまめ
どれがこゝろとるのこのつく
らくまくそやちの加ろうべを
さげてちろしやつゝあれどもうきと
りこわさるよあゝをなあふふ
らくさとさきとちもーりるふろん

ぜんーさくあひてうれいこれ四りと
ちゝざるゆふむさとあそゝゝびて
やへあんこをいさうるちんせろこ
てのるかいひこけは
あゝざみち福八
緑れとひなる
づけあるる
あてかゝる
らざゝるを
やへいりつは
ちよあがど
今あゝ
うちて
緑れが
つまれ
るる
うが

十 地本並義太夫抜本問屋 江戸本材木町一丁目春松軒 西宮新六版

三 二組 婚禮 筥形福壽盃 式亭三馬作 歌川美丸画

ゐ 親爲孝太郎次第 式亭三馬作 歌川美丸画

ゑ 教訓稚土産 竹塚東子作 歌川國丸画

ひ 鐘卷市右衛門誉助劔 益亭三友作 歌川國丸画

もせす 女雛男雛 清川文七五人揃紋月大寄 益亭三友作 歌川國丸画

右の外拙作新作ちかく賣出し申候間求出候ては遅く成ぬ内に

睦無差志の之圖

彫工 菊地芳兵衛

三馬作

此圖は六行成とりて昔男おとこ女の琉物あり白黒六つの碁石にて九つの盤上にうるはしくつれかてもこのまゝふべきるゝ孫とも今男女六人のりうめぞまたひむさーのごく
ひまこそのそのたれらくのひてたーんろぞく
たつまーくたはぜうぐちうぞゆえかたはあく
ゝくのひてたく三千六百弥つまふけのつまま
りうえかひつの恵のおそまさうるるみを
まうけてあるく粧くの六十の賀をとぶさと
あたたまるを通ゝたはりまつまを者をまれば
りいはぐみさうて其名はたかたを四ふきとえ
ゝりあまりみやびにさめをうるれびとて
俳者板元絵師彫者彫工製本師の
六人ぶみと合せて文化七年ひつまー月の
ちえをえとを
なーふるる
らぞーく

北川美丸画 美